

平成 30 年度第 1 回エコチル調査評価ワーキンググループ 概要

●エコチル調査第三次中間評価の考え方

- ・ 環境省、コアセンター、メディカルサポートセンターでは、第二次中間評価（平成 27 年度）後の調査の実施状況を評価する。
- ・ 一方、ユニットセンターごとの評価については、今年度（平成 30 年度）の状況を評価する。
 - ※ ユニットセンターの評価は、それぞれの評価を次年度の取組の改善に活かしていただくことや調査への取組意欲の向上に繋げていただくことを目的に、毎年状況を S～C で評価している。そのため、毎年度の評価がそれらの目的達成に繋がるように、評価視点については、リクルート率等これから改善することができない過去の項目ではなく昨年度までの年次評価での評価基準をベースに検討し、直近の状況を反映する評価を行う。

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	2019	2019
参加者(子ども)の年齢 ※先頭の子ども		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳
調査の主な動き	リクルート										
	質問票等による追跡										
										8歳時調査	
	詳細調査										
中間評価	第一次			第二次			第三次				
	リクルート2年目の状況を踏まえ、リクルートの終了及び初期のフォローアップに向けた評価を行う			フォローアップ初期の状況を踏まえ、長期的なフォローアップに向けた評価を行う。			6歳頃までのフォローアップの状況を踏まえ、学童期のフォローアップに向けた評価を行う。				

●評価の視点

①環境政策・施策への反映

- ・ エコチル調査の結果が政策に反映可能となるまでには、まだ時間を要する（結果がある程度出たあと）と考えられるが、今後の評価の視点として言及していくべきではないか。

②今後の検討事項

○人材育成について

- ・ 次回の第四次中間評価でエコチル調査を通して「若手研究者がどれだけ育ったかを評価すること」を評価の視点に記載し、記憶しておくことが重要。
- ・ 今回の第三次中間評価において、具体的に評価に落とし込むのは時期尚早だが、ユニットセンター等に今から人材育成に関する質問をし、データを収集していただくことが重要（10年経ってから同じ質問をしても把握しきれなくなるため）

●ユニットセンターの業務全般に関する取組 PDCA 評価について

・評価の項目について

PDCA サイクルに則って実施されているかを確認する指標として位置付けることとし、下記の①～③の3項目を主軸に評価を行う。なお、予算を効果的に活用した取組例等の、ユニットセンターにおいて、特に工夫した点がある場合は①～③含めて記載するか、又は、「④その他」として

追記する。

- ①参加者の調査参加へのモチベーションの維持
- ②質問票回収率の維持・向上
- ③コミュニケーション活動（参加者を含む調査地域でのリスクコミュニケーションを含む）
- ④その他

[評価] PDCA の観点を踏まえ、特に優れたフォローアップに係る取組みを行っている場合を◎とする。

・評価のプロセスについて

- ① ユニットセンター同士で、お互いの PDCA の取組を読みその中から「良い取組」と思われる取組を5つあげる※。

※ 自らのユニットセンター及び関連するセンター等（例えば、宮崎サブユニットセンターと沖縄サブユニットセンター同士）を除く取組の中から◎としてあげる。

- ② ①の集計結果を踏まえ、第2回評価にて、評価 WG 委員が「特に優れた取組 PDCA」として◎をつけるユニットセンターを選定する。